

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

児童・生徒一人ひとりの自立と社会参加を実現するため、児童・生徒の人権を尊重し、それぞれの教育的ニーズに適切に対応した教育・支援を行うことを基本として、社会生活に活かせる「知識・技能」の習得、自己決定や自己判断の基礎となる「思考力・判断力・表現力」の育成、生きる喜びにつながる「学びに向かう力・人間性等」の涵養を行う「児童・生徒一人ひとりを成長させる学校」をめざす。  
「アクティブ住之江」=めざす学校像  
(1) 児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応える教育活動を展開し、児童・生徒が主体的に学び、安心して成長していける学校  
(2) 特別支援教育のセンター的機能の発揮で地域貢献できる専門性の向上・蓄積・継承を実践し、情報発信する学校  
(3) 児童・生徒の自立・自己実現、社会参加に向け、保護者や関係諸機関と連携し、実効性ある取り組みを積極的に行う開かれた学校

### 2 中期的目標

1 安全・安心な学校づくりの推進  
(1) 児童・生徒一人ひとりの人権を尊重し、より安全・安心な学校づくりを推進する。  
(2) 児童・生徒の安心・安全につながる防災体制をめざし、防災マニュアル等を実態に合わせて継続的に改善し、校内体制や校内環境を整備する。  
(3) 児童・生徒の健康の保持増進につながる健康教育（食育・感染症予防を含む）を推進する。

2 特別支援教育のセンター的機能の充実  
(1) 特別支援教育のセンター的機能の発揮として、地域の校園と情報共有（令和3年）・情報交換（令和4年）・実践交流（令和5年）を行い地域支援の充実につなげる。  
(2) 交流及び共同学習を推進し、居住地校との交流及び近隣地域の小学校、中学校、高等学校等との交流教育の充実を図る。

3 教育力・専門性の向上と組織的な学校運営  
(1) 「個別の教育支援計画」「シラバス改善」「授業力向上」を軸としたカリキュラム・マネジメントを推進する。  
(2) ICT機器を活用した主体的な学びにつながる効果的な学習について研究する。  
(3) 学校組織の整備を行い、効率化と機能の充実を進める。

4 自立と社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実  
(1) キャリア形成の視点で教育課程を改善し、児童・生徒一人ひとりの自立と社会参加を実現する進路指導につなげる。  
高等部コース制（社会自立）では、2年度実施の校内検定を発展させ、3年度・4年度で検定種目の拡大、令和5年度に検定実施の確立を図る。  
(3) 児童・生徒の生きる力の育成をめざし、主体的に活躍できる場面や、多様な体験を通して学ぶ機会を効果的・効率的に持てるよう計画・実施する。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和4年 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 安全・安心な学校づくりの推進	(1) 一人ひとりの人権を尊重した学校づくり (2) ア 児童生徒の安心感につながる防災活動の創出 イ 防災・防犯マニュアルの運用と効果的な訓練の実施 (3) 健康教育(食育・感染症予防を含む)を推進する。	(1) ・教職員の人権意識の向上のため、人権教育委員会を中心にグループワークを含めた人権研修を実施する。 (2) ア・児童・生徒が避難経路を確認しながら避難訓練を実施。 イ・消防署、警察署と連携し避難訓練・防犯訓練の充実を図る。 (3) ・保健だよりや給食だよりを定期発行し、健康教育に関する情報の周知を図る。 ・「学校保健計画」に基づき取り組みを行い、健康教育の充実を図る。	(1) ・自己評価保護者向「いじめや暴力のない学校づくり」への肯定評価80%以上を維持する。[83.1%](H30は74.5%、R1は84.3%) (2) ア・半数以上の児童生徒が避難経路が分かる。 イ・消防署と連携した避難訓練実施 ・警察署と連携した防犯訓練実施 (3) ・たよりを年10回以上発行する。 ・保護者向け学校教育自己診断における健康についての興味を持たせるように努めているかの肯定回答率90%以上を維持。[92.3%](H30は91.5%、R1は92.4%)	
2 センター的機能の充実	(1) 地域におけるセンター的機能の充実 (2) 交流及び共同学習、体験学習の推進と交流教育の充実	(1) ・本校の個別の教育支援計画(A <sup>2</sup> )を支援先校園に提供し、実態把握のベースを共通化する。 (2) ・小中学部で居住地校交流を実施する。 ・各学部で近隣校との交流教育を計画し、相手校と十分に打合せを行い、活動内容の充実を図る。 ・地域と連携し、活動内容を充実させる。	(1) ・支援先5校園以上でA <sup>2</sup> 活用研修を実施。 (2) ・居住地校交流実施3回以上実施。(R1は3回、R2は中止) ・近隣校との交流教育を各学部で年1回以上、全学部で6回以上実施する。(R1は6回、R2は中止) ・本校児童生徒が地域活動に参加する機会を維持し内容充実を図る。(R1は種花運動、イチゴ狩り、伝承遊び、音楽祭、アートビート、マラソン、施設訪問の7回 R2は中止)	
3 教育力・専門性向上と学校組織の整備	(1) 「個別の教育支援計画」「シラバス改善」「授業力向上」を軸としたカリキュラム・マネジメントを推進する。 (2) ICT機器を活用した主体的な学びにつながる効果的な学習について研究する (3) 学校組織の整備と機能の充実	(1) ・「新個別の教育支援計画活用」「シラバス改善に向けた学部検討」「アクティブラーニングを意識した授業改善に向けた教科会」を計画的に実施する。 (2) 1人1台端末を効果的に活用した授業実践に研究的に取り組む。 (3) ・首席ごとのミッション「カリキュラムマネジメント」「教育環境整備・地域連携」「キャリア教育充実」を学校組織で進める。 ・校務分掌等の業務分担の整理に努め、勤務時間外在庁時間抑制につなげる。	(1) ・カリキュラムマネジメントの取組状況を学校HPで3回以上報告する。 ・自己診断保護者向け「学習内容は子どもに合っている」肯定回答80%以上(H30は78.1%、R1は76.2%) (2) ・各学部2事例以上の校内実践報告を行う。 ・先進事例について伝達講習を行う。 (3) ・校内組織を活かしミッションを遂行し、前期で進捗報告、後期で成果報告をHP公開。 ・ひと月の勤務時間外の在庁時間45時間以上の教職員数をR2年度と同程度とする。	
4 自立と社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実	(1) キャリア形成を図り進路指導を充実させる (2) 児童・生徒の生きる力の育成	(1) ・高等部コース制社会自立「サービス」で検定を実施する。 ・コース制授業で検定種目拡大について検討する。 ・進路先の情報を保護者が得られるよう説明会・見学会開催に努める。 ・進路希望調査等により保護者・本人の希望を十分に把握し、現場実習を行い、進路に繋げる。 ・現場実習や進路懇談等の取り組み内容や時期を検討し、より効果的な進路指導を行い、生徒の適性に合った進路選択の実現をめざす。 (2) ・児童生徒会活動等の活性化を図り、全校集会や校内展示に積極的に関わる等、児童・生徒がより主体的に活躍できる機会とする。 ・各行事の充実を図るとともに、児童・生徒の実態を十分考慮した社会体験や校外活動等を計画・実施する。	(1) ・アピリンピック大会と同等の検定を実施。 ・検討状況をコース制検討委員会で報告する。 ・事業所合同説明会開催。見学会2回以上開催。 ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、本人・保護者と連携した進路指導に努めている」の肯定回答率80%以上を維持。[80.5%](H30は78.7%、R1は75.6%) ・適切な進路決定、就職希望者の就労。 (2) ・毎月1回、中学部・高等部の生徒を対象とした児童生徒会や各種委員会の活動を活性化し、委員会での活動内容を全校集会で報告できている。展示や映像で児童生徒の作品や主体的な活動が情報発信されている。 ・保護者向け学校教育自己診断における子どもは、運動会・学習発表会などの行事を楽しみにしているの肯定回答率を75%以上を維持。[78.5%](H30は75.2%、R1は73.8%)	